

リーダーたちの本棚

Leaders as Reader

L

【率いる】
Leading

高付加価値商品で 新市場の開拓へ

1907年の創業以来、日本の食卓に植物油を提供してきた日清オイリオグループ。おいしさに加え、早くからの機能性成分に着目し、健康オイルや生活習慣病対応食品、高齢者・介護対応食品などを展開している。業績は好調で、2013年度から4期連続で増益を達成。2017年3月期は過去最高益となった。今村隆郎会長は次のように語る。

「食用油はライフサイクルが長い商品ですが、コモディティ化から脱却するためにはライフサイクルを短くする必要があります。そこで、健康や美に貢献する高付加価値商品の開発に取り組み、画期的な商品も誕生しています」

2013年以降に発売された商品だけでもラインアップは豊富だ。揚げ物の吸油量を最大20%抑える「日清ヘルシーオフ」、オメガ3脂肪酸を多く含む「日清アマニ油」、フレッシュキープボトル採用の「鮮度のオイル」シリーズなどの商品が生まれている。

油の成分の機能性に多くの可能性

研究開発の今後の成果も期待されている。例えば、消化吸収が良くエネルギーになりやすいMCT(中鎖脂肪酸)は、ココナッツ油やパーム油に多く含まれ、高齢者の低栄養の改善や手術後のエネルギー補給など、医療や介護の現場ではおなじみだ。これを同社は40年以上前から扱っているが、成分の機能性を深掘りしていく中で、生活習慣病対策や認知症の改善効果などが期待できることがわかってきた。

「当社の独自技術である結晶性油脂の開発も進み、取引先への提案を進めています。この結晶性油脂は油脂100%での粉末化を可能とし、粉末が細かく融点が高いので、口の中でスッと溶けるような冷涼感が味わえるのが特徴です。食品だけでなく、化粧品原料などファインケミカルの分野での応用も考えられます。当社だけでなく特許技術をオープンにして他社とのコラボレーションも図り、高付加価値商品の創出と市場創造を目指しています」

今村会長の職歴は、情報システム、人事、総務、経営企画、品質保証など幅広い。社長に就任した2011年は、東日本大震災の影響に加え、原料高もあって業績が伸び悩んだが、研究開発の強化、生産・物流・管理のコスト構造の見直しなどを行い、為替や原料環境に左右されにくい事業構造への転換を図った。今後は久野貴久新社長とともに、2017年度から20年度までの中期経営計画を推進していく。

「会長として、外部との関係構築や、環境対策や社会貢献などのCSR、ガバナンスの強化にも注力し、企業価値の向上に取り組んでいきたいと考えています」

研究開発はメーカーの生命線であると思われ、横浜磯子にある同社の「技術開発センター」にも足しげく通う。「社員や研究員には、「現状維持は後退に等しい、失敗してもいいのでチャレンジを」と言ってハッパをかけています。変化は成長のエネルギー。社員一人ひとりとその思いを共有し、さらなる飛躍を目指していきます」

■朝日新聞社メディアビジネス局ウェブサイトでは、今村隆郎さんが語るリーダー論を紹介しています。
<https://adv.asahi.com/> 朝日新聞 広告 検索

本連載「リーダーたちの本棚」が書籍化されました
『私をリーダーに導いた250冊』好評発売中
朝日新聞出版 ISBN 978-4-02-31547-1 本体価格 1500円＋税



日清オイリオグループ 代表取締役会長
いまむら たかお
今村隆郎 さん
1949年三重県生まれ、71年横浜市立大学商学部卒。同年日清製油(現・日清オイリオグループ)入社。2002年常務取締役。04年専務取締役。11年代表取締役社長。今年6月から現職。

今村隆郎さんのおすすめ本棚

『精神と物質 分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか』
(文春文庫) 立花隆 利根川進・著
100年に一度という発見で1987年ノーベル生理学・医学賞を受賞した利根川進氏に、立花隆氏が20時間に及ぶ徹底インタビュー。生命科学の驚異の世界を解き明かす。

『昭和16年夏の敗戦』
(中公文庫) 猪瀬直樹・著
開戦直前の夏、若手エリートで構成された模範内閣が出た結論は「日本必敗」だった。だが……。知られざる秘話から日本の意思決定のありようを探る。

『新装版 孫子の兵法』
(産業能率大学出版部) 守屋洋・著
『孫子』に書かれている戦略戦術論をビジネス社会に生きる人々の実践の書としてわかりやすく解説。1979年の初版発行から30余年にわたるベストセラーの新装版。

『日本を創った12人』
(PHP文庫) 堺屋太一・著
光源氏、源頼朝、織田信長、石田三成、徳川家康、大久保利通、渋沢栄一、マッカーサー、池田勇人など12人の人物考察を通して日本と日本人の独自性を探る。

『精円思考で考える経営の哲学』
(日本能率協会マネジメントセンター) 常盤文克・著
これからの日本企業の活路とは? 元・花王会長の著者が、日本をはじめとする東洋思想と米国の代表的な欧米的思想の両極を対照的に見立て、経営の極意を説く。

「昭和16年夏の敗戦」は、昭和16年12月8日の真珠湾攻撃以前に、官庁や軍や民間からエリートを集めた「総力戦研究所」において、日本がアメリカと戦った場合のシミュレーションを重ね、日本必敗の結論に至っていた事実を書いています。私の叔父はニューギニア戦で亡くなっており、総力戦研究所の存在を本書で初めて知り、何とも言えない気持ちになりました。総力戦研究所の貴重な報告を無

「日本を創った12人」は、今日の日本に深く影響を残す12人を、著者の堺屋太一さんが取り上げます。日本が宗教や新しい文化の「ええとこどり」が得意なのは、聖徳太子が仏教と神道をうまく両立させたからだと言われます。堺屋さんは説明します。そう言われてみると、なるほど大きな功績です。また、「勤勉と節約」という日本人気質を決定づけた人物として、石田梅岩を挙げています。細部への過剰なこだわりや、独創性の欠如といった日本人気質の短所も指摘しているところに堺屋さんのユニークな視点を感じられました。

5冊目は、『精円思考で考える経営の哲学』です。著者の元花王社長・会長の常盤文克さんは、理系の専門知識に加え、古今東西の文化や哲学に精通し、中でも中国の「易」にお詳しい。その観点から、物事はすべて陰と陽の対になって存在しており、自己を中心において「円思考」ではなく、自分の視点の対極にも一つの視点を持つ「精円思考」で立体的に物事を考えよ、と説きます。また、米国の成果主義や能力主義に倣うばかりでなく、仕事を通して人を育てる組織風土や集団のコミュニティを日本が築いた大切な資産であると再評価し、一方で欧米の国々にも学びながら独自の手法や仕組みを作る、それが日本企業の発展につながるはずだと指摘しています。私も常々感じていたことなので、大いに共感する内容でした。

改めてこれまでの読書を振り返ると、ユニークな視点や独自の言葉を持った著者を好んできたような気がします。そうした5冊をここに紹介しました。(談)

R

【読む】
Reading

ユニークな視点と独自の言葉を味わう

日清オイリオグループは、今年創業110年。今村隆郎さんは、2011年から社長を務め、「変化は成長のエネルギー」という信念のもと、事業構造改革を推進してきた。この6月に会長に就任し、今後は、久野貴久新社長とともに、新たにスタートした中期経営計画に取り組んでいく。

言葉はとても新鮮でした。とここで、先日、ロボットスーツを開発している会社を訪ねる機会がありました。介護や福祉分野への貢献を目指す企業同士で交流したので。その会社のロボットスーツは、手や足を「動かしたい」と考えた時に脳から出る信号を読み取り、人の動きをサポートします。私も試しましたが、本当に「手を動かそう」と考えただけでロボットアームが動くんです。利根川博士の30年前の言葉が動くように感じられた体験でした。また博士は、研究者に必要なのは、テーマを見極める目、ハードワーク、自然界の偶然に出会う運、仮説を立てるセンスだと語っています。当社は多くの研究者を抱え、食用油の機能性成分の研究を行っているので、博士の研究者としての姿勢も、今改めて参考にしています。

「孫子の兵法」は、経営企画部門に配属になり、黎明期のコンビニエンスストアを用いた給与計算、パソコンの導入、プログラミングなどの仕事に従事しました。その後、経営企画部門に配属となり、企業戦略を考へる立場になったことから、「孫子の兵法」を手に取りました。読む時期によって心に響く内容が変わりますが、組織を率いるようになって実感したのが「将トハ、智、信、仁、勇、嚴ナリ」という言葉です。日常的に積み重ねてこそ意味のある5条件だと思います。商品戦略において常に意識しているのは、「兵法は詭道なり」。商品も価格もいい意味でお客様の期待を裏切る提案に努め、社員にもその心がけを求めています。

「私には、大陸での既得権益を手放しにくい、日中開戦以来の十万人の英霊に申し訳が立つのか」といった「空襲」は、空気に負けて無謀な戦略を取る過ちは、企業経営にもあり得ること。客観的なデータとファクトをないがしろにしてはならないとの教訓として読みました。

に残っています。「精神現象を何でも脳内の物質現象に還元してしまつたら、精神世界の豊かさを殺すような理解にならないか」という立花さんの問いに、利根川博士は、「脳の生物学が進めば、認識、思考、記憶、行動、性格形成などの原理が解明されるだろう」と答えています。博士がノーベル賞を受賞した当時の対談で、脳科学が今ほど進んでいない時代でしたから、博士の

「精神と物質 分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか」は、100年に一度という発見で1987年ノーベル生理学・医学賞を受賞した利根川進氏に、立花隆氏が20時間に及ぶ徹底インタビュー。生命科学の驚異の世界を解き明かす。

「昭和16年夏の敗戦」は、昭和16年12月8日の真珠湾攻撃以前に、官庁や軍や民間からエリートを集めた「総力戦研究所」において、日本がアメリカと戦った場合のシミュレーションを重ね、日本必敗の結論に至っていた事実を書いています。私の叔父はニューギニア戦で亡くなっており、総力戦研究所の存在を本書で初めて知り、何とも言えない気持ちになりました。総力戦研究所の貴重な報告を無

「日本を創った12人」は、今日の日本に深く影響を残す12人を、著者の堺屋太一さんが取り上げます。日本が宗教や新しい文化の「ええとこどり」が得意なのは、聖徳太子が仏教と神道をうまく両立させたからだと言われます。堺屋さんは説明します。そう言われてみると、なるほど大きな功績です。また、「勤勉と節約」という日本人気質を決定づけた人物として、石田梅岩を挙げています。細部への過剰なこだわりや、独創性の欠如といった日本人気質の短所も指摘しているところに堺屋さんのユニークな視点を感じられました。

改めてこれまでの読書を振り返ると、ユニークな視点や独自の言葉を持った著者を好んできたような気がします。そうした5冊をここに紹介しました。(談)

三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1
●詳細は⇒<http://www.mikasashobo.co.jp>
●(株)ブックライナー(フリーダイヤル)0120-398899
(9:30~19:00)からご購入いただけます。

今日、どのメニューでやせようか?
お酒を飲む前に「漬物を5切れ食べる」
1杯目は好きなお酒、2杯目からは太りにくい「お酒」を。
お酒の合間に「白湯」を飲む。

居酒屋
ダイエット

居酒屋こそ、理想的な「ダイエット食堂」!
数カ月で**10キロ減!** 最新刊
家飲みでも、効果抜群! ISBN978-4-8379-2693-1 ●定価(本体1300円+税)

最新刊 「すっきり」「はっきり」「ゆったり」
自分をも「真っ新」にする、もっとラクに

忘れる力

平井正修 臨床宗全生庵住職
たまには、予定や期待や願望から離れてみませんか?

●「切り替える」「リセットする」方法
●「苦手な人と関わる時は「役割を演じる」
●「結果を気にせず」なるようになる、と思う
●「不安や迷い、怒りを消し去る「呼吸法」
●「もの」と一緒に「思い」も手放す

ISBN978-4-8379-2694-8 ●定価(本体1300円+税)

知的生きかた文庫
できる人の
語彙力
が身につく本
一目置かれる「大人の伝え方」!

最新刊
語彙力向上研究会

「業績は好調と仄聞しております」
「ここで痛み分けにしませんか」
「捲土重来を期して今度こそ勝つ!」

ISBN978-4-8379-6484-9 ●定価(本体630円+税)

知っている「史実」は、どこまで本音が!?
衝撃!!
日本史
ミステリー

◆最後の勅定奉行に疑惑あり! 「徳川埋藏金」
◆今なお謎く奇習が伝える、平政の幕人
◆武田信玄の戦術を支えていた「特別な集団」
◆日本史上、最も恐れられてきた「薬徳院の怨霊」
◆あの武将も、あの政略結婚も「替え玉」

重版出来!
博字面白倶楽部

ISBN978-4-8379-6827-6 ●定価(本体630円+税)

ベストセラー作家の
ちょっとはみ出した
お坊さんが、
やさしく答えます。

元結不動 密蔵院住職
名取芳彦

そんなこと
気にしない、

30万部突破!

練習

不安・怒り・煩惱を
放念するヒント

気にしらない
練習

幅広い層に
支持されています!

「仏教は、いい人にならなくていいです」
この一言で心が軽くなりました。

文庫だから買いやすい。
見開き2ページだから読みやすい。

電話や、メール、SNS……
今日からちょっと控えてみます。

子育てに疲れたり、悩んだりしたときには、
この本を開いています。(32歳/女性/主婦)

ISBN978-4-8379-8309-5 ●定価(本体590円+税)